

中北.com チュウホク ドット コム	地域教育情報紙	中北教育事務所 地域教育支援スタッフ	no 6
		TEL 0551-23-3008 FAX 0551-23-3013	

中北の地域社会 (COM munity)の心の交流 (COM munication)をめざします

「第2回峡北地区地域教育推進連絡協議会」開催

平成22年2月18日(木)に、第2回峡北地区地域教育推進連絡協議会が韮崎市の北巨摩合同庁舎で開催されました。まず研修会、ついで協議会が行われました。ここでは特に研修会での講演と実践発表について紹介します。

講演 「地域づくりは三助の連携で」



講師と演題

講師の山梨大学名誉教授内藤道子先生は、水を通じて生活を考える組織として「富士川ファンクラブ」を流域に住む女性たちと立ち上げられ、18年にわたって活動を続けてこられました。今回の講演はその活動体験についてです。

三助とは、個人とその家族などの血縁関係による扶助である自助、地縁関係をもとにした近隣社会による相互扶助である共助、政治・行政の公式意思決定を経て繰り出される公的サービスである公助のことです。「富士川ファンクラブ」は、富士川流域の地域社会の女性たちが結成した共助の組織ですが、その運営はこの三つの力により行われてきました。

見事な地域の活性化

内藤先生は、ご自身の体験にもとづいてクラ

ブの総会やイベント等について生き生きと話されました。その活動は、今日的課題をとらえながら、流域各地の人々が手をたずさえて取り組んだ地域づくりと言えるものです。そもそもクラブは、「男女共同参画社会」を目指す機運を背景に、女性（内藤先生は「おばさんたち」と表現されていました。）のみを会員とし、女性が行動・体験の中で力をつけようとするものでした。総会や交流会での流域各地の食材や特産物を持ち寄ってその良さを再発見する「地産地消」の実践、上流から下流までの各地域に住む子どもが集う「富士川子ども交流会」の「サバイバル活動」での自然体験学習あるいは上流域と下流域の水を比べさせる等の環境教育の試み、山梨大学工学部を中心とする「山梨水ネット」に加盟しての各地域の水質検査の実施、高齢者の確実な避難に焦点を当てた「防災訓練ネットワーク」の展開等々、先駆的なあるいは時宜を得た活動が次々と紹介されました。それらの活動は会員の自発的な行動によって企画・運営されたものですが、自主性を維持しながら自治体や国土交通省などとも結んで、支援・協力を得る、あるいは共催するなどして個人の力、あるいは地域社会の力だけではできない活動も行うものでした。

富士川流域の地域社会が川を仲立ちに結びあって活性化していく様子が目に浮かびました。アンケートによりますと、地域社会のさまざまな活動、地域教育支援に携わっているお集まりの方々に大いに参考になったようです。

《次頁に続きます》

実践発表

「みなさんも始めませんか? 『おやじの会』」

発表の要旨

実践発表は、長坂小学校おやじの会事務局の堀内伸浩氏による「みなさんも始めませんか? 『おやじの会』」でした。同会は、3年前に父親たちももっと学校に関わってほしいという当時の校長先生の呼びかけがもとになって、父親たちが「できる者が、できる時に、できる事をする」という考えで設立されました。以来、この会は、遊具のペンキ塗り、ゴミ投げ捨て防止看板の設置、住宅会社経営者である会員の「総合的な学習の時間」での木材の生産・流通の話、倒壊の恐れがあった校庭の白樺の伐採、卒業祝いの餅つき、校舎耐震改修工事のための引っ越しの手伝い等々の多くの活動を行ってきました。

た。

設立の背景には、父親たちが学校に関わることのほかに、退会の規定を設けないことにより世代をこえて集まった父親たちが参加・交流すること、そのことで地域社会のつながりを強めていきたいという意図がありました。

お父さんの応援に子どもも笑顔

活動風景がビデオや写真で紹介されましたが、お父さんたちが楽しみながら学校への応援を行い、仲間を増やしていることがよくわかりました。白樺の木のまわりに集まった子どもたちの笑顔、つきたてのお餅をもらった子どもたちの笑顔が印象的でした。子どもたちの健全な成長と地域のまとまりが切り離せないものであることをあらためて感じさせていただいた報告でした。

放課後子どもプラン推進事業 N未来をつくる子どもたちのためにN

「放課後子どもプラン推進事業」

とは?

放課後子どもプラン推進事業は、地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるように、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施するべく平成19年度よりスタートしました。

山梨県の場合は、各市町村教育委員会が主導し、放課後や週末等の子どもたちの適切な遊び場や生活の場を確保し、小学校の余裕教室や放課後児童センターなどを活用して、地域の方々の参画を得ながら、学習やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動などの取り組みを実施しています。また、県教育委員会としては、放課後子どもプラン推進委員会を年間3回開催するとともに、各市町村の放課後子どもプラン推進事業の指導者を対象に、年間5回の研修会を実施しています。

今年で3年目を迎える本事業は、現在全県で15市町村43教室において、小学校や公民館、児童館や児童センターなどを活用し、地域性を生かしつつ「放課後子どもプラン」に取り組んでいるところです。また、放課後の児童のあり

方について検討してもらうための機関（運営委員会）を組織して、市町村の実情に応じた「放課後子どもプラン」を作成し、放課後事業のあり方を明記し、具体的な活動に取り組んでおります。

ここでは、平成19年度に、文部科学省の「放課後子ども教室推進表彰」を受賞した甲府市の「みんなの居場所『羽黒ほっとサロン』」を、受賞調書を元にご紹介したいと思います。

みんなの居場所 「羽黒ほっとサロン」

「羽黒ほっとサロン」は、甲府市の羽黒小学校区の地域住民のボランティアによる放課後子ども教室として、平成16年10月23日に設立総会が開かれました。それ以降、平成17・18年度は「地域教育再生事業」の委託を受け、平成19・20・21年度は「放課後子ども教室推進事業」の委託を受け、先駆的に行ってきました。

甲府市立羽黒小学校の空き教室で、市より「行政財産の目的外使用許可」をいただいて実施していますが、61名のボランティアが共有理念として次の3点を掲げています。

①人はひとりで生きているのではないこと
(自他共に気持ち良く生きていくためには、他

人を思いやり、我慢・自制心が大切であることを、あらゆる場で体得させている)。

②持続可能な地球環境を守り継ぐこと(環境学習の重視～農業体験・植栽・ビオトープの管理)。

③「ありがとう・おかげさまで」の心を育成するため、1分間スピーチで訓練しながら、言葉による感情表現ができるようなコミュニケーション能力を高めること。



〈調理教室の様子〉

開催日は、月曜日から金曜日まで、学校が開催されている原則午後3時～午後6時まで。夏休み中も盆休み以外は、開催しています。平成20年度は、239日間開催しました。原則、4年生から6年生までを対象としています。

……… <年間の主な活動> ………

4月：友だちを知ろう(自画像を描き展示する)

5月：農園・花壇の整備をしよう

子どもの日を楽しもう

6月：田おこし・田植えをしよう。

「緑のカーテン」ゴーヤ苗を植えよう

7月：夏の集いをしよう(農作物の収穫・田舎に泊まろう)

8月：川遊び・調理教室で大人と交流しよう

9月：「ふるさとまつり」に参加しよう

10月：稲刈り・地区文化祭に参加しよう

11月：畑の冬支度をしよう

12月：冬の集いをしよう

1月：書初め大会をしよう

2月：節分で弱い心を追い出そう

3月：ひな祭りを楽しもう(蛍の幼虫を放流)

………
通常の放課後活動日程は、次のようです。

15時～16時：学習時間(宿題・自由勉強)

16時～16時30分：お掃除

16時30分～：自由遊び

コーディネーターは、地域の育成会員や子どもクラブ指導者、食生活改善推進委員などの方々と、団体活動として協働体制を組み立てています。そして、その方々に参加していただいて、農業体験・緑のカーテン・夏のつどいや冬のつどい・ビオトープの整備や管理(ホタルの飼育)・川遊び(バーベキュー)・調理教室・ふるさとまつり・地区文化祭などの活動を行っています。

このような地域住民と協働しての自然環境保護や環境美化活動、リサイクル活動が認められて、財団法人やまなし環境財団の「平成21年度若宮賞」も受賞しております。



早春を駆け抜ける

甲斐市梅の里クロスカントリー大会



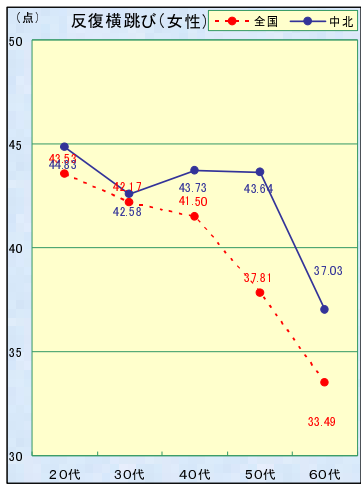
2月28日(日)、甲斐市梅の里クロスカントリー大会が、敷島総合文化会館を主会場に開催されました。同大会は2.5km・5km・10kmの三種目で行われ、体力や年齢に応じて参加できます。コースは、甲府盆地を眺望できる丘陵地帯に設定されています。ランナーたちは、梅の花が咲きほころぶなか、沿道の人たちの応援を受けながら快い汗をかいていました。

平成21年度 「体力・運動能力調査」結果



平成21年度の体力・運動能力調査を、中北教育事務所管内の5市、1町、3団体のご協力をいただき中、5月～11月にかけて、11箇所で行いました。

この調査は、東京オリンピックが開催された、昭和39年より実施され、国民の体力・運動能力の現状を明らかにするとともに、スポーツ行政の基礎資料として活用されてきました。平成20年度は全国で74,194人のデータを元に、平成21年10月の体育の日に結果が公表されています。

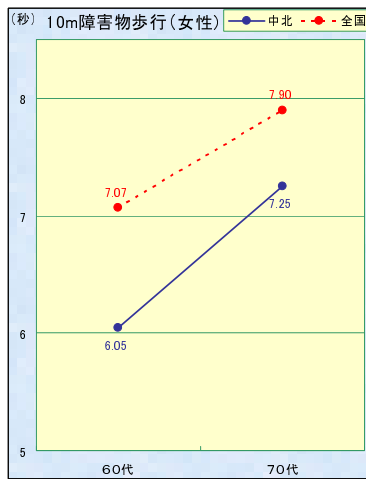
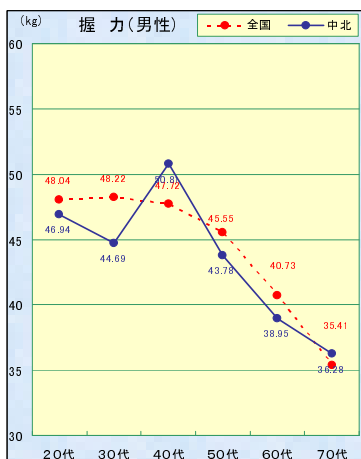


中北教育事務所管内でも平成21年度調査に、全会場で482人に参加していただきました。

グラフは、全国(H20)と中北地区の各年代の平均値(H21)を比較したものです。

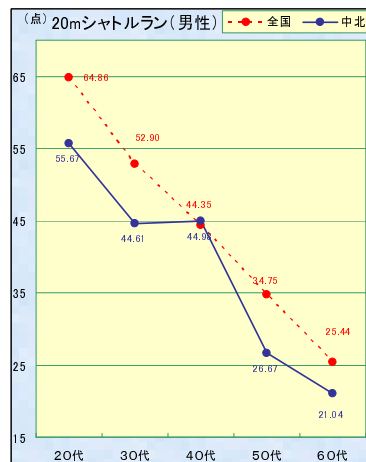
敏捷性の指標と言われる反復横跳びの女性では全国を上回る数値が出ました。

また、体力の指標とも言われる筋力(握力・上体起し)や瞬発力(立ち幅跳び)では、男女とも全国平均を下回っている年代が多い中、40代の数値が全国を上回る種目が多く見られました。



60代・70代での女性で全国平均を上回る種目(開眼片足立ち、10m障害歩行)がありました。その反面、20代・30代の若い世代で全国平均を下回る種目が多かったことが懸念されます。

車に依存する生活スタイル、仕事の忙しさから、運動不足になることの影響からか20mシャトルランや、6分間歩行等で全国との差が開いていることが、今後の課題といえます。(「6分間歩行・10m障害歩行・片足開眼立ち」は65歳以上のみの測定です。)



この調査の実施にあたり、多くの方にご参加いただいたことや、管内市町の生涯スポーツ担当者、各市町体育指導委員、ことぶき勸学院(北巨摩・中巨摩・甲府)の各学園の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

子どもの体力低下が叫ばれています。ご家族で、健康・体力に関心を持ち、平成22年度各市町で実施する、体力・運動能力調査にぜひご参加ください。

平成22年度の実施につきましては、各市町教育委員会にお問い合わせください。

平成21年度『中北.com』No.6

編集・発行

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
中北教育事務所地域教育推進担当
電話 0551-23-3008
ファクス 0551-23-3013

『中北.com』は中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。
アドレスは次のとおりです。
<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>